

自然広場から： 近隣の自然の変化に目を向ける No.33

「明るい晩秋の花々 Bright flowers in deep autumn」

2020年11月26日

秋が深まって来た。日の出が6時半近くとなり、寒さが増し、外出にはヤッケ・手袋が欠かせない。自然に人は体も心も縮みがちだが、野の花たちは命を謳歌しているかのように明るく澆刺としている。

竹でも木でもないのにどこまで高く茎が伸びていくのだろうと眺めていると、ある日美しい薄紫の花を咲かせる。その名は**皇帝ダリア**。背の高さは2m以上、茎は太いのだが強風で簡単に折れることがある。促成の帝国が短命なのと同じ自然の理か？ 一方、**ツワブキ(石菖)**は端正な黄色の花を毎年確実に咲かせる。つやのある菖の葉は食用になる。

エンジェルトランペット：天使がトランペットを吹き鳴らし、救い主キリストの誕生を祝っている情景が思い浮かぶ、と言う人はクリスチャンだけか？大会の開会を告げるトランペットを連想する人の方が多いのではないか。初夏にも咲き、黄色や薄紅色の花もある。いずれにしても笛の音が明るく鳴り響き、人々の気分を盛り上げている情景が目には浮かぶ。

サフラン：春先に咲くクロッカスの仲間。乾燥させた雌しべは、スパイス兼ハーブとして用いられ、パエリアなど料理を黄色に色づけするためにも使われる。因みに、葉が全くない薄赤紫のイヌサフランが10月半ばに咲いていた。

マンデビラ：美しい花だ。赤、ピンクの花が多く、白は珍しいようだ。蔓(つる)性の植物が次々と花を咲かせ、長持ちするので人気がある。

コキア(ほうき草)：赤い綿ボールが丘を埋め尽くした国立ひたち海浜公園のコキアの光景が多くの人々を魅了している様子が度々TVで放送され、一般に知られるようになった。昔は、ほうきを作る材料として農家の畑の角に植えられていた。

サルビアはセイジとも呼ばれ、数百種も存在すると言う。短い赤首の花をつけるサルビア(*Salvia splendens*)がよく知られていたが、最近では写真のような青、赤の首長のサルビアも見かける。**シクラメン**、**ジンジャー**も今や特別な花ではなく、公園や一般家庭の庭で見ることができる。なお、花卉の小さなガーデン(ミニ)シクラメンは、冬でも野外でも育てられるので人気がある。

● バックナンバー (写真が拡大表示される)

<http://sengawacx.com/>

